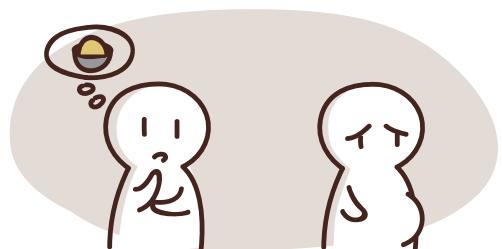


摂食障害者をケアするプロダクトの研究

Research on Care Products for People with Eating Disorders



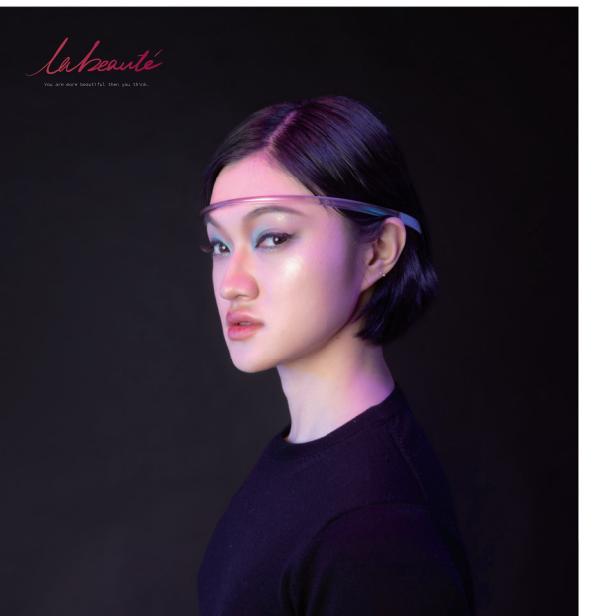
研究内容は、文字で人に伝えるだけではなく、心理面、対人関係、社会環境、食行動の4方向から摂食障害者にサポートを行い、症状の改善や気分の緩和など、健康的な生活のパターンを提案する事である。合わせて、障害に至る前のダイエット中の人々に正確な価値観を伝え、健康的な生活を送る方法を具体的に提示したいと考えた。



食事前はいつも何か食べたい、食事後は食べ過ぎで後悔、罪悪感を抱く

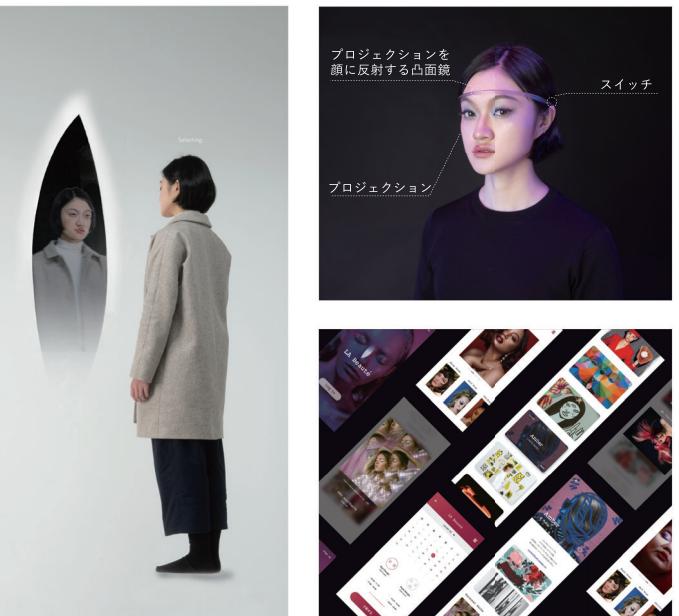
摂食障害には食行動を中心、様々な問題があらわれる病気である。極端な食事制限や、過度な量の食事を摂取をしてしまうことで、患者の健康にも様々な問題が引き起こされる。

摂食障害は食欲と自己意識が切り離された精神疾患である。脳は食欲に支配され、自己意識と生理本能の闘いが行われてしまう。本研究は食欲をキーワードにして、メンタルケアをメインに、五つのデザインを展開した。



未来の「美しくありたい」人々に向けた提案

摂食障害者と友人や親族、他人とのコミュニケーション不足などの対人関係の問題を解決するために、友人や親族との交流が可能なチアミラーと投影型のメイクアップ装着具を提案した。





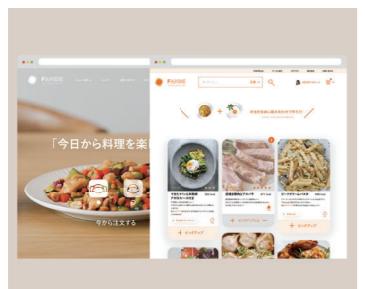
全ての摂食障害者に向けた食欲をコントロールするためのプロダクト

摂食障害者の中で、発症頻度が最も高い過食の問題と病院受診率が低い現象に対する、心理療法の認知行動療法に関する知識を用いた、携帯用のマインドフルネス製品及びサービスデザインを提案した。また、摂食障害者に対する CMF の研究も行った。



夜食習慣を改善する、1人暮らしの新社会人に向けた提案

ストレスを溜め込みやすく、発散する場所がない新社会人をターゲットに、サラリーマンが夜食でストレスを発散するという現象に対して、夜食の時間に代わる夜のスキンケア時間を設定した美容冷蔵庫と、それに関連したスキンケア宅配サービスのデザインを提案した。



子供と親に向けた、成人の摂食障害を予防するための提案

幼少期に親が子どもに食事制限をさせるほど、大人になったときに摂食障害になりやすいという現象に対して、親が食事も管理している間に子どもが自由に食事を注文できるスマートランチョンマットとサービスデザインを提案した。



食生活パターンを把握できる、在宅の拒食症患者に向けた提案

外出自粛期間中に長時間自宅にいることにより、回復中の摂食障害者の暴食や拒食症状が再発してしまう問題を解決するために、自動調理機のプロダクトデザインと新鮮な食材を宅配するサービスのデザインを提案した。